

## コスタリカ内政・外交主要事項 (2020年9月)

2020年9月の当国内政・外交主要事項を以下のとおり報告申し上げます。

### 【要旨】

#### 内政

- 1 アリアス元大統領に対する強制わいせつによる2件の告発が取下げられた。
- 2 ニカラグアからのアリアス財団に対するサイバー攻撃が発生した。
- 3 金の違法採掘問題担当の環境エネルギー省次官が解職された。
- 4 地デジ放送アンテナ設置場所で大規模な地滑りが発生した。
- 5 大統領府データ分析機関(UPAD) スキャンダルに関連したクレスポ住民擁護官の調査方法に問題なし。

#### 外交

- 1 習近平国家主席との電話会談で、独立200周年に合わせ、来年2021年中の国道32号線拡幅工事完了を目指すと伝えていたことを明らかにした。
- 2 アルバラード大統領が、訪中可能性について言及した。
- 3 チンチージャ元大統領の米州開発銀行総裁選辞退が正式に公表された。
- 4 財政状況悪化による在外公館の閉鎖が発表された。

### 【各論】

#### I 内政

##### 1 アリアス元大統領に対する強制わいせつによる告発取下げ

(1) 3日、アリアス元大統領を強制わいせつの疑いで告発していた女性2名が、7、8月に相次いで訴えを取り下げていることが判った。女性の弁護士によると、まだ正式な取下げ手続が終えられていないことから、詳細は伏せられている。(「ア」元大統領を告発した女性は計3名であり、残り1名は告発を取り下げている)

(2) アリアス元大統領は、女性2名に対してそれぞれ2014年及び2015年に強制わいせつ行為を行った疑いがもたれており、2019年2月には検察庁が告発を受理し、法的手続に入ったことから、所属政党の国民解放党(PLN)から一時的に離党している。

##### 2 ニカラグアからのアリアス財団に対するサイバー攻撃

(1) リナ・バランテス・アリアス財団理事長は、4日～7日にかけてニカラグアのオルテガ大統領夫妻の支持者から、同財団のソーシャルメディアに対するサイバー攻撃が増加(9日だけで150件)したことを明らかにした。

(2) 同財団が、8日に「ニカラグアにおける人道に対する罪法廷(eI Tribunal de Conciencia sobre Crímenes de Lesa Humanidad en

Nicaragua)」（模擬法廷）の第一回目のセッションを行うことにオルテガ大統領夫妻の支持者が反発したものとみられる。同法廷は、人道に対する罪として、ニカラグアにおける性暴力に関連する事案を調査することを目的としている。

### **3 環境エネルギー省次官の解職**

(1) 8日、環境エネルギー省は、組織再編のためにクルシータス採掘場（アラフエラ県サンカルロス市）問題担当のセレステ・ロペス次官を解職することを決定したと発表した。

(2) 同省は、これまで4ポストの次官職を3ポストに削減し、今後「ク」採掘場問題は、他の3名の次官で分担するとしている。同採掘場に関しては、環境破壊及び金の違法採掘が深刻であるにもかかわらず、有効な手を打たない環境省及びロペス次官に批判が集まっていた。

### **4 地デジ放送アンテナ設置場所での大規模地滑り**

9日、イラス火山（標高3432メートル）の火口付近において大規模な地滑りが発生し、頂上付近に設置されていたテレビ局Canal23（Enlace、キリスト教局）の電波発信塔が崩落した。現状では、崩落現場周辺に地面の亀裂が広範囲に広がっており、周辺に密集しているその他放送局のうちCocesna社（航空管制システムを扱う法人）、Canal13（公共テレビ局）の電波塔が崩落の危機に瀕している。Canal13は、別のアンテナを使用する。

### **5 大統領府データ分析機関（UPAD）スキャンダル**

(1) 国会は、大統領府データ分析機関（UPAD）スキャンダルに関し、調査の一部を担当していたクレスポ住民擁護官が政権側に有利になるよう取り計らった不正があったのではないかとする疑惑に対する調査を進めていたが、17日、右事実はなかったとする国会の調査委員会の報告を36対12で承認した。「ク」擁護官は罷免されず、残留が決まった。

(2) 大統領府は本年2月にUPADを創設し、各種調査を行い政策立案に反映しようとしたが、調査の中に国民のプライバシーを侵害する恐れが強いものがあると野党等からUPADそのものの存在を否定する動きが出て、UPADは廃止され、「ク」擁護官がアルバラード大統領に対する事情聴取を行った。しかし、その後聴取記録の一部が無くなったことにより、国会で、同擁護官の罷免を求める動きが出ていた。

## **II 外交**

### **1 習近平国家主席との電話会談（国道32号線拡幅工事関連）**

アルバラード大統領は、8月31日に「黒人及びアフリカ伝来文化の日」を祝うために訪れたカリブ海側のリモン市で開いた閣議で、数週間前に行われた習近平中国国家主席との電話会談（6月の電話会談を指すと思われる）で、国道32号線の拡幅工事を独立200周年にあたる来年中に完成させたい旨伝えていたことを明らかにした。

## **2 アルバラード大統領の訪中可能性**

9月11日の大統領府定例記者会見において、アルバラード大統領は、（米中が極度の緊張関係にある中で、中国を訪問することになった場合、どのような外交運営を行う用意があるのか、という記者からの質問に対して）歴代大統領がそうであったように、自分（「ア」大統領）は、中国訪問の招待を受けているとともに、習近平国家主席を来年、国道32号線の完成のタイミングで招待する意向である。他方、米国との良好な関係を維持していることも付け加える。

## **3 チンチージャ元大統領の米州開発銀行総裁選辞退**

（1）9月3日付外務省プレスリリースは、米州開発銀行（IDB）総裁選挙に立候補を表明していたラウラ・チンチージャ元大統領が辞退を表明した旨掲載した。コスタリカは2月以来、チンチージャ元大統領を正式な候補として、IDB加盟国及び域外国に支援を呼び掛けてきた。

（2）コスタリカの取組、「チ」元大統領の覚悟、選挙戦序盤における各国からの支援表明により、コスタリカがIDBの一層の強化、ラテンアメリカ地域の経済的、社会的発展に貢献できるであろうと確信するに至った。

（3）しかし、3日、「チ」元大統領は、本選挙戦から辞退する旨コスタリカ政府に通知越した。コスタリカ政府は、その意思を尊重し、選挙戦を続行しないこととした。

## **4 財政状況悪化による在外公館の閉鎖**

23日、ベネズエラ、ベリーズの各大使館、シドニー総領事館の閉鎖及びユネスコ代表部と仏大使館の統合が発表された。